



気になるあいつ
わかぎゑふ

双葉社

例え話

先日までやっていた芝居のあるシーンに「女はみんな果物だ。男よりどこか丸い感じがするから、果物のようなんだ」という台詞があり、周りにいた男達が、例えばどんな果物かを創造しあつて盛り上がるという場面があつた。

ま、私が書いたのでバラしてしまうと、私自身が女性をよく果物やお菓子の例えるのでそういうシーンが生れたのだ。

脚本上はまず桃を登場させた。桃は見るからに女性を想像させる素晴らしくエロチックな果物だ。色といい、フォルムといい、なんともいえ

ない官能的な風情がする。意外とアクがあるというところも女性っぽいではないか。

物語の展開では桃と言いたかった他のメンバーが

「桃か、いきなりとられたなあ。じゃあ、みかんなんてどうですか？」

と切り返す。みかんは庶民的で、たくさんあるけど、食べたなら美味しくてとまらないという意味ではいい位置付けだった。どこにでもいそぐだけ、やっぱり自分の彼女。お嫁さんにしたい子って感じだろうか。

それから役者達も台詞を作ってくれた。

「アメリカンチェリーがええな」と一人が言い出した。

「まず色が赤黒くて官能的な感じがするでしょ。ちよつと小粒なところが小悪魔的やし。それやのに食ったら思った以上に甘くて、最高！」

というわけだ。どうやらかなり女を知っているようだ。

「葬式の似合う感じは？」と言い出した役者もいた。

「デラウエアっていう葡萄ありますよね？あれなんか陰気で、若くして

夫に先立たれた美人妻って感じちゃういます？」

という話である。これを言い出したのは、関西小劇場界では女殺しで通っているH君だった。

「じゃあ、あれは？ あのだ：見た目は木の実みたいな感じの、なんか黒っぽい柿か？ みたいな東南アジアの果物あるでしょ、あれ中開けたら、白いトロトロツとした実出てきて、めっちゃエッチな感じですよ」

と言って、その果実の名前が思い出せなくてイライラしていた役者もいた。

実はそれが今回の写真にある「マンゴスチン」である。タイや香港に行ったら町中で売られていて、確かに見た目はゴツゴツしてるのだが、中身はライチと柿を足したような味で絶品である。私は彼の意見にかなり共感した。たしかにマンゴスチンはかなり色っぽい気がする。今度、香港に行ったら平な目で見ながら食べてしまいそうだ。

ところで最後に、女性Ⅱ果実というお題でみんなを唸らせたのは「アツサリした女」ということで、青リンゴだった。歯ごたえといい、ほのかな甘さといい、クールな感じがいいという結論である。あんまり熟れすぎたのはよくないんですかね男性陣は。

【著者略歴】

わかぎあふ

1959年、大阪府生まれ。女優、エッセイスト。1986年より故中島らも氏とともに劇団「リリパット・アーミー」を主宰し、現在同劇団の進化形「リリパット・アーミーII」の座長。1994年より演劇ユニット「ラックシステム」を旗揚げ。演劇制作会社「玉造小劇店」を運営し、女優のみならず、脚本、演出、メイクから衣装まで芝居全般にわたりその才能を発揮し続けるスーパーレディ。主な著書に『すみっこのすみっこ』『女体の神秘』『秘密の花園』『ぬくい女』『イブの抜け穴』『大阪弁の詰め合わせ』など多数。
